見守りきりたい（2014年12月）

この地域には技能実習生として農業に従事しているフィリピンの若者が何人もいて、疲れも溜めず いつも陽気な彼らが僕は好きです。その中のひとりが「考えない。だからストレスもない」というようなことを言ったそうです。すごいな、と感心しました。

子どもどうしのやり取りを見ていると、何かイジワルめいたことをしたり、叩いたりそして大泣きする子が出てくる、というようなことが当然起きる。その様子にイラついてついロ出ってしまうことがあります。けれど当の本人たちにとってはそれがあたり前のコミュニケーションであって、中には大事な手続きもあったのだと、後になって気づくことがある。子どもたちは何事もなかったかのように、また遊び始めている。本当に仲良さそうに。重大な怪我につながらないよう、その気配りさえすればいいだけなのに、根に持つのは いつも余計な解釈を挟む大人の親ばかり。でも良いとも悪いとも判断せず、ただただ見守るというのは、なかなか難しいものです。

まがりなりにも、自分がかつてそうであった人間の子どものことさえこんなことなのに、いわんやミカンの気持ちをや。です。芽の伸びや枝葉の具合からそれを探るしかありませんが、あてずっぽうの域は出ません。どうしても常識や知識にとらわれて期待が先行し、つい余計な手を入れてしまう。そしてそれが次の手の必要を生み出してしまう。手間を惜しむつもりはありませんが、あのとき我慢していれば、樹はもっと伸び伸びとして、自然とよい実をつけてくれていたのかもしれない。そう振り返る場面がどうしてもあります。

僕たちは果樹の有機栽培、自然栽培を目指していますが、これは地域の環境保全や住民の健康といったまちづくりという意識がまず第一にあります。農産品に関すれば、与えられた環境の中で、すべて植物として一生懸命育ったのだ、ということは確かなはずです。僕たちは生産者であると同時に消費者でもあり、だから、目の前に並んだ食材のあいだに栽培方法によって優劣をつけることはありません。多少の食わず嫌いはありますが、何でもありがたくいただきたい。

けれど、ミカンをもっと、素直な気持ちで信じたい、信じられるようになりたい、という思いは、有機栽培や自然栽培を実践することでしか育まれないところがある気がします。そしてそこからミカン栽培も子育ても、暮らしや経済も、割り切って区別することなく、なるべくひとまとまりに過ごしたいという気持ちも芽生えてくる。農業者だけでなくいろんな人の話を聞いて、もっともっと上手くなれるよう、努めていきたいと思います。

うえはらゆうさ

おことわり

今年は、他生産者のあいだでも、貯蔵中のミカンに腐敗果が多発しているようです。夏季の多雨と日照不足に加え、秋台風などの影響で果皮が弱ったのではないかと考えています。段ボール箱のふたを開け、なるべく風通しのよい涼しい場所で保管し、腐敗果を見つけたときはすぐ取り除くようにすればあまり広がりません。十分注意して選果をしていますが、なんち屋では防腐剤の散布はおこなっていませんので、皆さまにも協力していただくよう、お願い申し上げます。

なお農薬使用状況など、お送りしたミカンの栽培状況に関する詳しい情報は何でもお答えいたしますので、下記連絡先まで気軽にお問い合わせください。

なんち屋

〒797-0113
愛媛県西予市明浜町狩浜 3-1404
電話： 0894-89-5050（FAX 兼用）
web： http://doratomo.jp/~nancha/
e-mail： nancha@sheep.dog.cx